

令和 5 年 6 月 16 日現在

機関番号：25403

研究種目：基盤研究(C) (一般)

研究期間：2017～2022

課題番号：17K04567

研究課題名(和文) アメリカにおける「教職専門職基準」の策定とそのインパクトに関する研究

研究課題名(英文) A study on the Professional Teaching Standards and the Impacts in the U.S.

研究代表者

赤星 晋作 (AKAHOSHI, SHINSAKU)

広島市立大学・国際学部・名誉教授

研究者番号：80175778

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 2,400,000円

研究成果の概要(和文)： アメリカの「全国教職専門職基準委員会」(NBPTS)により策定された専門職としての「教職基準」(Teaching Standards)、「州間教員評価支援協会」(INTASC)による「モデル・コア教職基準 州対話のためのリソース」(Model Core Teaching Standards: A Resource for State Dialogue)を調査分析し、その策定の経緯と組織、内容、意義と課題等を明らかにした。
そして、わが国における「教員育成指標」へ幾つかの示唆を得ることができた。

研究成果の学術的意義や社会的意義

教育の成果は教師の指導力に大きく依拠し、教師の資質能力の基準とその向上方策が求められている。教師の資質能力に関する基準の開発は、2000年以降世界的な流れであると言われるが、その走りは1980年代後半アメリカにおける教職基準である。よって、アメリカにおける専門職としての「教職基準」(Teaching Standards)の研究は、より効果的な「教職基準」を考察していく上で有益である。
またわが国の「教員育成指標」の策定を考える際、アメリカにおける「教職基準」の研究から幾つかの示唆を得ることができる。

研究成果の概要(英文)： This study clarified the following points: 1) Process and organization on formulation of teaching standards, 2) Contents of teaching standards, 3) significance and problems of teaching standards, through the investigation of “Five Core Propositions for Teaching” as teaching standards by NBPTS and “Model Core Teaching Standards: A Resource for State Dialogue” by INTASC in the US.

And this study offered some suggestions to “Kyoin Ikusei Shihyo” in Japan.

研究分野：教師教育学

キーワード：教職専門職基準 教師の資質能力 教師教育 教員育成指標

1. 研究開始当初の背景

教育の成果は教師の資質能力に大きく依拠する。よって、優れた教師を養成し専門職として確立していく事が大切である。そのためには、教師の専門的力量的ビジョン、すなわち教師としての専門性の基本的な枠組みである教職の専門職基準について考える必要性を痛感した。そこでこの分野において先駆的な実践をしているアメリカに注目した。

また近年、わが国においても教職専門職基準の必要性が強く主張されている。2015(平成27)年の中教審答申では、「教員育成協議会」(仮称)による「教員育成指標」の策定が提案されている。

2. 研究の目的

アメリカの先駆的事例に注目して、「全国教職専門職基準委員会」(National Board for Professional Teaching Standards=NBPTS) また州間教員評価支援協会 (Interstate Teacher Assessment and Support Consortium=InTASK) における教職専門職基準を中心に、アメリカにおいて「教職専門職基準」はどのような経緯、組織において策定され、どのような内容か、またそれがどのように教師教育に影響を与えていくのか、その意義と役割、成果と課題について明らかにする。

そして、わが国においても「教員育成指標」の策定が提案されているが、それについて考察する際幾つかの示唆を得る。

3. 研究の方法

教職専門職基準の策定について、その歴史的背景を探る。そして、「全国教職専門職基準委員会」(NBPTS) 州間教員評価支援協会 (InTASK) の教職専門職基準を中心に、その策定のプロセス、内容等を文献・資料を収集し分析する。また、現地でしか入手できない資料も多いし、アメリカを訪問しフィールド・ワークを実施する。訪問地は、ペンシルベニア州・フィラデルフィア学区とする。私自身、1994-95年ペンシルベニア大学教育学大学院 (Graduate School of Education, University of Pennsylvania) 客員研究員であり、学区及びペンシルベニア大学教育学大学院を訪問し、資料収集、インタビュー調査を行う。それらを踏まえ、わが国における教職専門職基準 (教員育成指標) の策定及びその効果的な活用について考察する。

4. 研究成果

(1) 「全国教職専門職基準委員会」(NBPTS) による教職基準

教職に対する5つの中核提言

NBPTSは1987年に設立された。そして、1989年に『教師が知らなければならない、また出来なければならないこと』を刊行し、その中で「教職に対する5つの中核提言」(Five Core Propositions for Teaching)を提示した。5つの中核提言は以下の通りである。そしてそれは、教科別、年齢(段階)別に25領域に分類され、それぞれに基準が設定されている。

提言1：教師は、生徒と彼らの学習に専念する

- ・教師は、生徒一人一人の違いを認め、それに応じて彼らの実践を展開する。
- ・教師は、生徒がどのように成長し学習するかを理解する。
- ・教師は、生徒を平等に扱う。
- ・教師は、彼等の使命は生徒の認知発達を卓越するという事を知っている。

提言2：教師は、教える教科とその教科の生徒への教え方を知っている

- ・教師は、教科の知識がどのように生み出され、体系化され、そして他の教科と関連づけられるかを理解している。
- ・教師は、教科を生徒にどのように伝えるかの専門的な知識を使いこなす。
- ・教師は、知識への多様な道筋を創案する。

提言3：教師は、生徒の学習を管理し、点検する責任を持っている

- ・教師は、教育目標を達成するために多様な方法を行わせる。
- ・教師は、多様なセッティングとグループの中で生徒の学習を支援する。
- ・教師は、生徒の積極的な参加を尊重する。
- ・教師は、定期的に生徒の進捗状況を評価する。
- ・教師は、学習プロセスに生徒と積極的に関わる。

提言4：教師は、自分の実践を体系的に考察し、また経験から学ぶ

- ・教師は、彼等の専門的な判断を吟味する困難な選択をする。
- ・教師は、彼等の実践を改善し生徒の学習に明確にインパクトを与えるためにフィードバックと研究を活用する。

提言5：教師は、学習共同体のメンバーである

- ・教師は、学校の教育効果を高めるために他の専門職と協働する。
- ・教師は、家庭と協働して活動する。
- ・教師は、地域社会と協働して活動する。

開発プロセス

25 領域（資格証明）のそれぞれの基準は、以下のプロセスにおいて開発される。

1. NBPTS の資格証明協議会 (Certification Council) が、基準委員会 (standards committee) の委員を任命する。
基準委員会は、それぞれの分野の代表者 12～15 名により構成される。委員の多くは「全国委員会による資格証明された教師」(NBCTs) であるが、その他学問分野、児童生徒の発達、教師教育等関連分野の専門家である。
2. 基準委員会は、以下にそって基準を開発する。
 - ・5 つの中核提言 (Five Core Propositions) を省察する。
 - ・教職の全体的な特徴を強調しつつ、熟達した実践を支える専門的な知識、技能、態度を確認する。
 - ・教師の専門的判断が、行動にどのように反映されるかを説明する
 - ・基準は異なった背景 (セッティング) でどのように活用されるか明らかにする。基準は、パブリック・コメントを通して修正が加えられる。
3. 基準案は、パブリック・コメントのために教育関連団体・機関に広範に配布される。その後、委員会は文書を再検討し修正するために再度会合を持つ。
4. その文書は、資格証明協議会と理事会 (Board of Directors) に提出され、最終的なフォームで公表される。

「教職基準」の運用

NBPTS は資格証明の活動を開始し、これらの基準に合致した教師を「全国委員会による資格証明された教師」(National Board Certified Teachers=NBCTs) として認定している。まず、全国委員会資格証明 (National Board Certification = NBC) の認定を受けるためには以下の条件が求められる。

1. 認可された機関からの学士学位を所持する
2. 幼稚園、小学校、中学校、高校での少なくとも 3 年間の教授経験を有する
3. 要求される場所の、州の教員免許を所有する。

こうした条件をみたす教員が資格証明を申請し、教師が 5 つの中核提言 (Five Core Propositions) を実践に移すようにデザインされた、各教科と年齢(段階)による基準に沿って審査される。

NBCTs は図-1 に示すように、教員志願者 (Preservice Teacher) 新採教員 (Novice Teacher) プロフェッショナル教員 (Professional Teacher) NBCTs と、教員養成から熟達した実践に導く教職の連続性の中に位置付けられる。そして、教科指導における教授能力と指導力を発揮すると同時に、経験を積み重ね学校組織におけるリーダー層として活躍していくことも期待されている。

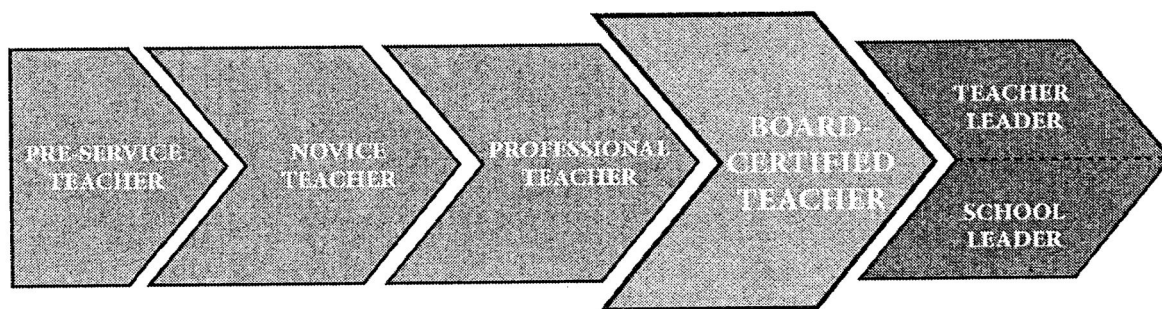


図-1 教職における連続性

出典) National Board for Professional Teaching Standards. *What Teachers Should Know and Be Able to Do*. 2016, p.42.

「全国教職専門職基準委員会」(NBPTS) の教職基準は、多くの学区において現職教師の職能開発のための研修に、また大学においては教員養成プログラムに組み込まれている。さらには、各州独自の教職基準にインパクトを与え、それは州認可の養成プログラムや免許更新・上進に連動

したものとなっている。教師に求められる知識、技能、資質、信念、責務等の共通の枠組みであり、それらをとおして教師の質を保証するための基準である。そしてそれは、生涯にわたって力量形成を図る、所謂「学び続ける教師」にも繋がっていく。ただ一方で、「全国委員会による資格証明された教師」(NBCTs)の教育効果に対してはおおむね肯定的な意見が多いが、疑問視する声もある。その際、重要なことは「学力」をどのように捉えるかである。

(2)「州間教員評価支援協会」(InTASC)の教職基準

InTASCの「モデル・コア教職スタンダード 州対話のためのリソース」(Model Core Teaching Standards: A Resource for State Dialogue)は、以下のように基準1から基準10をあげている。これらの基準は、すべての生徒(K-12)が大学へ入る、あるいは今日の世界の労働市場に入ることを準備するという目的の達成を保証するために、「教師が知っておくべきこと」と「教師がすることができること」のアウトラインである。そしてこれは、すべての教科領域と学年に及び教授実践における共通の原理と基本である、としている。

ここで特徴的なことは、それぞれの基準に具体的な「パフォーマンス」、そのための「必須の知識」、「重要な心構え(姿勢)」(disposition)に分類して説明している点である。以下に、10の基準と1例として基準1の「パフォーマンス」「必須の知識」「重要な心構え」を示す。

基準1：学習者の発達

教師は、学習のパターンと発展は認知の、言葉の、社会の、感情の、そして身体等の領域において各個人異なるということを知り、学習者がどのように成長し発達するかを理解している。そして、発達に即して適切で挑戦的な学習経験をデザインし遂行する。

【パフォーマンス】

1(a) 教師は、それぞれの発達領域(認知、言葉、社会、感情、身体)において学習者の要求に合致し、また発達の次の段階の足場を固める教育を計画し修正するために、個々のまた集団のパフォーマンスを定期的に評価する。

1(b) 教師は、個々の学習者の強さ、興味・関心、要望を考慮に入れ、また学習を向上させ加速することを可能にする発達に即した適切な教育を創造する。

1(c) 教師は、学習者の成長と発達を促進させるために、家族、地域住民、同僚、他の専門職と協働する。

【必須の知識】

1(d) 教師は、学習がどのように生じるか-学習者はどのように知識を構成するか、技能を獲得するか、訓練された思考プロセスを発展させるか-を理解している。そして、生徒の学習を促進させる教育戦略の活用の仕方を知っている。

1(e) 教師は、各学習者の認知の、言葉の、社会の、感情の、そして身体が発達に学習に影響を与えるということを知っている。そして、学習者の強さと要求に基づく教育上の決定の仕方を知っている。

1(f) 教師は、学習に対するレディネスを確認する。そして、1つの領域における発達が他の領域におけるパフォーマンスにどのように影響を与えるかを知っている。

1(g) 教師は、学習における言語と文化の役割を理解している。そして、言語を理解できるように、教育に関連のある接近しやすいそして挑戦的にするために修正するやり方を知っている。

【重要な心構え】

1(h) 教師は、学習者の異なった強さと要望を尊重する。そして、学習者の発達を助長するためにこの情報を活用することに専念する。

1(i) 教師は、成長の基礎として学習者の強さを活用し、また彼らの誤認を学習の機会として活用することに専念する。

1(j) 教師は、学習者の成長と発達を促進する事に対する責任を持つ。

1(k) 教師は、各学習者の発達を理解しサポートすることにおいて家族、同僚、他の専門職の考えと貢献を重視する。

基準2：学習の違い

教師は、それぞれの学習者が高い基準に達することを可能にする包括的な学習環境を保障するために、各個人の違いと多様な文化とコミュニティの理解を活用する。

基準3：学習環境

教師は、個々のまた協働的な学習を支援し、また積極的な社会との交流、学習における活発な参加、自己のモチベーションを促すような環境を創造するために他者と共に活動する。

基準4：内容の知識

教師は、教える教科の中心概念、探求のツール、そして構造を理解している。そして、教科のこれらの局面を学習者が内容を修得するために理解しやすく意味のあるものにする学習経験を創造する。

基準 5：内容の応用

教師は、真の地域や世界の問題に関して学習者を批判的思考、創造性、協働的問題解決に引き入れるために概念の連結や異なった見方の活用の仕方を理解している。

基準 6：評価

教師は、学習者が自身の成長に関与するために、学習者の進歩を測定するために、また教師と学習者の意思決定を導くために多様な評価の方法を理解し活用する。

基準 7：教育計画

教師は、学習者とコミュニティの背景に関する知識と同様に、内容領域、カリキュラム、教科横断的技能、そして教育学の知識を参考にして、すべての生徒が明確な学習目標を達成するよう支援する教育を計画する。

基準 8：教育戦略

教師は、学習者が内容領域とそれらの関連を深く理解し、意味のある方法で知識を応用する技能を育むために多様な教育戦略を理解し活用する。

基準 9：専門職としての学習と倫理的実践

教師は、専門職としての継続的な学習に従事する。そして、彼らの実践、特に他者（学習者、家族、他の専門職、地域住民）への選択と行動の結果を絶えず評価するために、それを明白に示すものを活用する。そして、実践を各学習者の要望に合致するように適合させる。

基準 10：リーダーシップと協働

教師は、生徒の学習に対して責任を持つために、学習者の成長を保証し学習者、家族、同僚、他の学校専門職、地域住民と共に協働するために、そして専門職向上のために適切なリーダーシップの役割と機会を要求する。

そして、基準と指標（indicators）に関する留意点を次のように述べている。

これらの指標は教師が各基準をどのように示すかのサンプルであり、すべての指標を示すことを期待はしない。またここに示さなれなかった基準に対して優れた他の指標があるかもしれない。このように、これらの指標はチェック・リストであることを意図するのではなく、むしろ基準が意味することの姿を描く支援的な方法である。

（3）わが国における「教員育成指標」

「教員育成指標」の策定により、教師として求められる資質能力を整理し体系化して教師としての資質能力を効果的・継続的に向上させていこうとする意味は認められる。それは専門職としての教職の確立を目指す。

ただその際大切なことは、画一的、固定的な教師像を描くのではなくて、教員として求められる基礎的・基本的な資質能力は確保しつつ、得意分野や長所、個性を持った多様な教師の育成である。教師個々の自主性、自律性は尊重されねばならない。

そして「教員育成指標」の目的は教職生活全体を通じた教師の資質能力の向上であるから、そのために効果的で活用しやすいものでなければならない。その際アメリカ「州間教員評価支援協会」(InTASC)の「パフォーマンス」「必須の知識」「重要な心構え」に分類した「教職スタンダード」は参考になる。

また、指標作成のために、教育委員会、大学、学校、職能団体、地域の諸機関・団体等の横の連携協力、また教員養成、採用、研修という一連の教師教育における縦の連携協力が、これまで以上に必要である。具体的に、「教員育成指標」を踏まえた養成プログラムをどのように組み立てていくのか、採用、研修にどのように生かしていくのか今後の動きを注視していかなければならない。

そして「教員育成指標」が策定され運用され始めて間もないが、今後実際の運用においてその成果と課題を検証し指標や研修計画等を見直していくことが大切である。

引用・参考文献

赤星晋作「アメリカにおける『教職基準』(Teaching Standards)の策定とその運用」『全国教職専門職基準委員会』(NBPTS)を中心に「アメリカ教育学会編『アメリカ教育研究』第29号、2019年。

赤星晋作「わが国における「教員育成指標」の策定-その実際と課題-」『広島市立大学国際学部』『広島国際研究』編集委員会編『広島国際研究』第26号、2020年。

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計2件（うち査読付論文 2件/うち国際共著 0件/うちオープンアクセス 2件）

1. 著者名 赤星晋作	4. 巻 26
2. 論文標題 わが国における「教員育成指標」の策定 その実際と課題	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 広島国際研究	6. 最初と最後の頁 33-43
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -

1. 著者名 赤星晋作	4. 巻 第29号
2. 論文標題 アメリカにおける「教職基準」（Teaching Standards）の策定とその運用 「全国教職専門職基準委員会」（NBPTS）を中心に	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 アメリカ教育学会編『アメリカ教育研究』	6. 最初と最後の頁 1-14頁
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -

〔学会発表〕 計1件（うち招待講演 1件/うち国際学会 0件）

1. 発表者名 赤星晋作
2. 発表標題 アメリカの学校教育－教育思潮・制度・教師－
3. 学会等名 アメリカ教育学会（招待講演）
4. 発表年 2018年

〔図書〕 計4件

1. 著者名 アメリカ教育学会編著	4. 発行年 2021年
2. 出版社 東信堂	5. 総ページ数 328
3. 書名 現代アメリカ教育ハンドブック〔第2版〕	

1. 著者名 赤星晋作編著	4. 発行年 2019年
2. 出版社 学文社	5. 総ページ数 221
3. 書名 新教職概論 - 改訂新版 (終章「これからの学校・教師」)	

1. 著者名 赤星晋作	4. 発行年 2017年
2. 出版社 学文社	5. 総ページ数 153
3. 書名 アメリカの学校教育－教育思潮・制度・教師－ (単著)	

1. 著者名 日本教師教育学会編	4. 発行年 2017年
2. 出版社 学文社	5. 総ページ数 418
3. 書名 教師教育ハンドブック (共著 (第5章アメリカの教師教育))	

〔産業財産権〕

〔その他〕

-

6. 研究組織

氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
---------------------------	-----------------------	----

7. 科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計0件

8. 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関
---------	---------